

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年3月22日

1. BMJ:COVID-19 : アメリカの妊産婦死亡率が増加
2. オミクロン株流行期に感染した妊婦の予後 : ワクチン接種別解析 : UK Obstetric Surveillance System data

【松崎雑感】

BMJ系医学雑誌の記事紹介です。

1. アメリカ : コロナパンデミック中に、ワクチン未接種の妊産婦の死亡率が大きく増加した事、人種民族的マイノリティの妊産婦も、死亡率が高かったという報告です。
2. イギリス : COVID-19感染のために入院した妊産婦では、人工呼吸器治療やICU治療率が高く、極めて多くの人々がワクチン未接種だったという報告です。
ワクチンヘジタンシーと決別する必要があります。

COVID-19：アメリカの妊産婦死亡率が増加

Tanne JH. **Covid-19: US maternal mortality rose during pandemic.** *BMJ*. 2023;380:p659. Published 2023 Mar 20. doi:10.1136/bmj.p659

コロナパンデミック中に、アメリカの妊産婦の死亡率が、人種民族的マイノリティ、大都市以外の地域で激増していることが二件の論文で報告された。WHOのまとめによれば、もともとアメリカの妊産婦死亡率（妊娠中から出産後42日目まで）は先進国中で最悪だった。

パンデミック前の10万人あたり妊産婦死亡率は、アメリカ17.4、ニュージーランド1.7、ドイツ3.2、オーストラリア4.8、イギリス6.5だった。

CDCの報告書によれば、アメリカの妊産婦死亡数は2019年に754名（10万人あたり20.1）、2020年に861名（23.8）だったが、2021年には1205名（32.9）に増加した。

2020年から21年にかけて妊産婦死亡率はあらゆる階層で増加したが、特に黒人では10万人あたり69.9名となり、白人（26.6）の2.5倍となっていた。

すべての年齢層で10万人あたり妊産婦死亡率は増加していたが、25才未満層では、2018年の10.6名から2021年の20.4名に増加、25～39才層では16.6から31.3、40才以上層では81.9から138.5に増加した。

妊娠中に死亡した妊婦の大部分はワクチンを受けていなかった。ちなみにアメリカでは2021年8月まで妊婦に対するワクチン接種が推奨されていなかった。

メリーランド大学とボストン大学に公衆衛生学部は、出産から1年後までの妊娠関連死亡率を追跡した。

その結果、10万生産（live birth）あたりの妊娠関連死は、パンデミック前29.0、2020年36.7、2021年45.5と増加した。

研究者らは、すべての階層と地域で妊娠関連死が増えたが、アメリカ先住民、アラスカ先住民で最も増加していたと指摘している。

地域別の妊娠関連死増加率は、大都市で15.9%、中小都市で39%、田舎で21%だった。

米国会計検査院2022年報告書によれば、COVID-19パンデミックは「ケアシステム、移動手段、テクノロジーへのアクセス、生活環境、雇用など健康の社会的決定要因に悪影響をもたらし、妊産婦の健康格差を増大させた。

例えば、公共交通と保育機能の縮小により、妊産婦がヘルスケアサービスを受けることが難しくなった。それに加えて、人種差別も激化して妊産婦の健康に悪影響がもたらされた。

ちなみに、COVID-19感染による直接死亡リスク増加に加えて、慢性ストレスの増加もまた生理機能障害をもたらし、妊産婦死亡リスクを増加させた」と指摘している。

オミクロン株流行期に感染した妊婦の予後：ワクチン接種別解析：UK Obstetric Surveillance System data

Engjom HM, Ramakrishnan R, Vousden N, et al. **Severity of maternal SARS-CoV-2 infection and perinatal outcomes of women admitted to hospital during the omicron variant dominant period using UK Obstetric Surveillance System data: prospective, national cohort study.** *BMJ Med.* 2022;1(1):e000190. Published 2022 Aug 24. doi:10.1136/bmjmed-2022-000190

目的

オミクロン株B.1.1.529流行期にCOVID-19に感染した妊婦の重症化リスクとワクチン接種の関連を明らかにする。

方法

イギリスの産科サーベイランスシステムによる全国的前向きコホート調査。イギリスの94病院産科病棟。COVID-19検査陽性の産科病棟入院妊婦を対象。有症状感染、無症状感染、重症化率（WHOクライテリアに基づいた中～重症例）とワクチン接種状態の関連。

結果

産科病棟入院数3699名。有症状感染者986名。中～重症者は144名。人工呼吸器治療者は99名。ICU治療者は30名。抗ウイルス療法は13名。死亡者は4名。

有症状感染者のうちワクチン接種状況が明らかな者は845名。このうち489名（58.9%）はワクチン未接種。3回接種完了者は55名（6.5%）。

ワクチン未接種の有症状感染者では中～重症者が93名（19.0%）。ICU治療に移行した者30名中23名（76.7%）がワクチン未接種。

結論

重症化した妊婦の多くがワクチン未接種だった。

入院した妊婦のワクチン接種率は低かった。妊娠中あるいは妊娠を予定している人々に対するワクチン接種を最優先課題とすべきである。

重症化した妊婦に対する抗ウイルス治療率が低いままでよいのかどうかは早急に検討する必要がある。